

平成 25 年度 千曲川河川事務所建設労働災害防止大会を開催！！

「**「危ないぞ」感じたその場ですぐ直せ**」

(松本土建株式会社 高山 匡弘)

「**危険箇所 一人の目よりみんなの目、探して改善安全対策!**」

(株式会社守谷商会 宮入 文夫)

「**「誰かやる!」見知らぬふりが命取り 自分が作ろう安全職場**」

(中信建設株式会社 海沼 隆一)

— 多数の応募から選定された安全スローガン —

北陸地方整備局では、毎年9月の第4週を「建設労働災害防止週間」と定め、建設工事における労働災害の防止に向けての活動や啓発等を行い、より一層の安全衛生水準の向上に努めています。

千曲川河川事務所では、9月26日(木)に「建設労働災害防止週間」の活動の一環として、主に工事現場等での安全確保を目的に、建設労働災害防止大会を開催しました。

大会には発注者をはじめ、千曲川河川事務所が発注する工事受注者、発注者と受注者で組織する工事安全対策協議会の役員等の約93名が参加し、今後本格化する河川工事について、官民一体となった建設労働災害の根絶に向けた意思統一を図ったところです。



挨拶する宮武工事安全対策協議会会長



大会に参加されたみなさん

【建設労働災害防止大会の内容】

大会では、宮武工事安全対策協議会会長(千曲川河川事務所長)の挨拶の後、長野労働局労働基準部健康安全課産業安全専門官野池弘氏による「長野県における第12次労働災害防止推進計画について」や、建設業労働災害防止協会長野県支部専属講師柴田房夫氏による「重機事故防止対策について」の講演がありました。また、事務局より平成25年(8月末)工事事故発生状況について説明がありました。



講演された 野池弘氏（左）と柴田房夫氏（右）

【安全管理優良受注者の紹介】

北陸地方整備局では、建設工事における労働災害の防止に向けて、受注者による自主的な安全衛生管理体制の整備と現場での安全対策の取り組みに対して、その安全管理が特に優秀であって他の模範となる受注者を「安全管理優良受注者」として表彰しています。

今年度は、9月17日に表彰式があり、北陸地方整備局全体での平成24年度完成工事受注者399社の中から29社が選定表彰され、千曲川河川事務所管内では、「藤森建設工業株式会社」と「株式会社鹿熊組」が表彰を受けられ、建設労働災害防止大会で出席者に紹介されました。



安全管理優良受注者表彰を受けた 左 藤森建設工業株式会社様
右 株式会社鹿熊組様

【安全スローガン・安全宣言採択】

大会に先立ち、関係者から今年度の安全スローガンの募集を行い、13社・49名から74編の応募がありました。その中から優秀スローガン3編について、大会にて提案者より紹介していただき、全員で大きな声で復唱し採択しました。

安全宣言は、慣例に従い松本地区協議会 高松護岸他工事の株式会社フカサワイール竹内様から提案いただき、会場の皆さんの拍手により安全宣言が採択されて宮武会長に渡されました。その後、伊藤隆三副会長（株式会社守谷商会代表取締役社長）の挨拶があり、閉会しました。

非出水期を迎え河川工事がこれから本格化しますが、千曲川河川事務所工事安全対策協議会は、ゼロ災害で工事が完成するよう、受発注者が連携し事業を進めて参ります。



優秀スローガンの復唱
(左)高山氏 (中)宮入氏、(右)海沼氏



安全宣言を提案する竹内氏((株)フカサワイール)

安全宣言

千曲川河川事務所発注工事の労働災害防止については、日頃から、千曲川河川事務所工事安全対策協議会において、安全パトロールや安全講習会等を通じ、その根絶に鋭意取り組んでいるところである。

長期にわたるデフレと景気低迷などから、地域の建設業を取り巻く経営環境は、いまだ厳しい状況にあり、より一層の生産性向上が求められている。反面、平成二十五年度予算と合わせ平成二十四年度補正等予算の工事が最盛期を迎えるなか、現場では熟練労働者の不足及び高齢化、また、多様化する機械化施工の進展も相まって、作業員と建設機械の混在が増すなど、労働災害発生の危険性が更に高まり、僅かな気の緩みも絶対に許されない状況にある。

一方、東日本大震災や長野県栄村の地震などの大規模災害、異常気象による記録的な豪雨等が相次いでおり、緊急・災害時には初動対応から応急・復旧作業に至るまで、現場の最前線で活躍する地域の建設業は地域社会の安全・安心を支える、まさに「地域の守り手」としての期待は大きく、確固たる使命を果たしている。

このため、地域における建設業は、地域の経済・社会の進展に欠かす事の出来ない役割を担っており、地域を熟知する建設業の健全な発展は不可欠である。

このような状況のもと、無事故、無災害を実現するため、安全施設の設置だけに頼ることなく、心身とも健康で、安心して働ける快適な職場環境づくりを行うなど、工事現場の特性に応じ、きめ細かな安全対策に取り組むことが重要である。

私達、千曲川河川事務所工事安全対策協議会は、本大会を契機に、新たな決意のもと、より一層、工事現場の安全管理に努め、官民一体で建設労働災害の根絶に取り組むことを宣言する。

平成二十五年九月二十五日

千曲川河川事務所工事安全対策協議会



左 安全宣言を会長に渡す 竹内様
右 閉会の挨拶を行う 伊藤副会長